

今日のトピック 豪州準備銀行は10会合連続で利上げ 利上げ停止の思惑と中国景気の回復期待の綱引きに

ポイント1 政策金利は11年ぶりの高水準

- 豪州準備銀行（RBA）は3月7日の理事会で、政策金利である翌日物金利の誘導目標を0.25%引き上げて3.6%としました。昨年5月から始まった利上げは10会合連続、利上げ幅は計3.5%となり、政策金利は約11年ぶりの水準へと上昇しました。

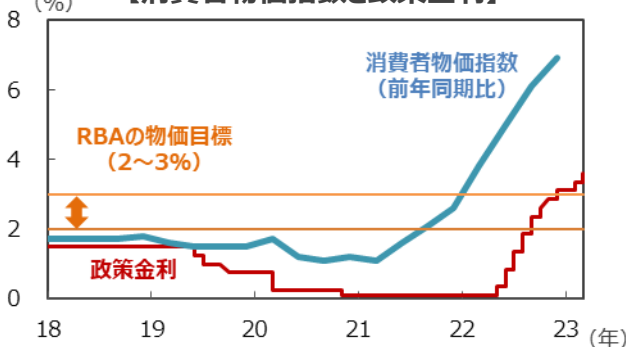
ポイント2 声明文はややハト派に転換か

- 豪州の1月の消費者物価指数は前年比+7.4%の上昇にとどまり、前月（+8.4%）から減速するとともに、市場予想（+8.0%）を下回りました。
- このため、RBAは利上げを継続する一方、その声明文で「インフレがピークを打った」とコメントしました。さらに、前回の声明文にあった「金利の更なる引き上げ」との文言を、「さらなる引き締め」に変更したことから、市場の一部では「RBAが以前よりハト派に転じた」と受け取られる結果となりました。

今後の展開 豪ドルは引き続き堅調か

- 弊社では、前回会合で将来の複数回の利上げの可能性が示唆されたことや、今回の声明文の変化などを踏まえ、今後の景気動向によほどの変調がきたさない限り、次回理事会での0.25%の利上げが最後の利上げとなるものと予想しています。
- 今回の声明文発表を受け豪ドルはやや軟調に推移する局面も見られましたが、エネルギーや鉱物資源といった主要な輸出品目の価格上昇から豪州経済は今後も堅調な推移が見込まれ、こうした交易条件の改善が豪ドルを下支えするものと思われます。加えて、中国経済の再開・回復への期待や豪州産石炭の禁輸措置の解除もあり、今後も豪ドルは堅調な推移が続くものと予想しています。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2018年1-3月期～2022年10-12月期。変動の大きい項目を除外したトリム平均値。
政策金利は2018年1月1日～2023年3月7日。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2020年1月1日～2023年3月7日。
豪日金利差は2年国債利回りの差。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2023年 2月8日 豪州準備銀行は9会合連続で政策金利を引き上げ
2022年12月8日 RBAの利上げは累計3%に到達

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。